研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-154	A-11C	21-081	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

The prevalence of current smokers and alcohol drinkers among cancer survivors and subjects with no history of cancer among participants in a community-based cardiometabolic screening program in Miyagi prefecture, Japan: a comparison with nationally representative surveys in other countries

宮城県の地域ベースの循環器・代謝系スクリーニングプログラム参加者におけるがんサバイバーとがん既往歴のない者の現在の喫煙率と飲酒率：他国の全国規模の代表的な調査との比較

執筆者

Nishimoto Y, Tsubono Y, Kogure M, Nakamura T, Itabashi F, Tsuchiya N, et al.

掲載誌

Cancer Med. 2021 Dec;10(24):9000-9011. doi: 10.1002/cam4.4364.

キーワード	PMID
アルコール飲酒、がんサバイバー、横断的研究、日本、有病率、喫煙	34850586

要　旨

目的： 日本におけるがんサバイバーおよびがん既往歴のない者の現在の喫煙率と飲酒率を明らかにし、他国の全国規模の代表的な調査との比較を行うことを目的とした。

方法：前向きコホート研究（東北メディカル・メガバンク地域住民コホート）のベースラインデータを用いて横断的研究を実施した。2013 年から 2015 年にかけて，コホートに参加する 20 歳以上の住民を対象に、自記式質問票による調査を実施した。過去にがんの既往がある対象者は、がんサバイバーに分類した。性差、年齢を調整し、現在の喫煙者、飲酒者の有病率を算出した。年齢調整有病率比（PR：がんサバイバー率をがん既往歴のない人の率で割ったもの）および 95%信頼区間を log-binomial 回帰モデルで推定した。

結果：がんサバイバー2,760 人を含む 36,786 人が調査対象となった。男性では、がんサバイバーにおける年齢調整を行った喫煙率と飲酒率はそれぞれ 18.8%と 74.4%で、年齢調整 PR（95% CI）はそれぞれ 0.76（95%CI, 0.66-0.86,p＜0.001）および 0.95（95%CI,0.91-0.98,p＝0.002）であった。同様に女性では、それぞれ 6.1%、37.9%、0.84（95%CI,0.67-1.06,p＝0.138）、0.96（95%CI,0.90-1.03,p＝0.313）であった。米国、英国、豪州の研究においても、がん既往歴のない人に比べてがんサバイバーの現在の喫煙率や飲酒率が大幅に低くはなかったが（PR ≥ 0.75）、韓国の研究では低かった（PR < 0.75）。

結論：日本人のがんサバイバーにおいて、特に男性の多くが、現在も喫煙および飲酒を続けていた。欧米の研究と同様に、がんサバイバーががん既往歴のない人の割合より大幅に低いということはなかった。